

< 様式 6 > 総合農業技術センター試験・研究課題事後評価表

総合農業技術センター課題評価委員会

試験・研究課題名

大課題名：環境保全型農業の確立（H19～）

小課題名：果菜類の有機栽培実証と有機土壌の改善（H22～24）

担当者名：赤池一彦、萩原裕一、長坂克彦

評価項目	評価点	指摘事項
1 研究目標の達成度	4 / 5	個々の技術についてはほぼ目標を達成した部分もあるが、テーマ全体で見ると研究目標のハードルは高く、3年間という限られた期間内で十分達成するのは難しいと思われる。
2 成果の有用性 (普及性、波及性)	5 / 5	夏秋キュウリと夏秋トマトについて有機栽培に適した品種が選定されるなど、普及性の高い研究成果が得られている。
3 研究の発展性	4 / 5	有機栽培技術を確立するには、さらに有効なコンパニオンプランツの選定と活用、乾燥茶殻に代わるL型資材の探索とそれを用いた土壌環境の改善、有機栽培農家圃場での実証試験等、さらに研究を進展させる必要がある。
4 研究課題選定の妥当性	4 / 5	これまで研究面での取り組みが行われてこなかった果菜類の有機栽培法を研究課題に選定したことは妥当である。
総合評価	4 / 5	個々の研究については良い結果が得られているので、さらに有機栽培技術の確立に向けて研究を進めてほしい。その際、初めて有機栽培に取り組む農家と長年有機栽培を続けて土壌の養分バランスが偏ってきている農家を分けて取り組みを進めてはどうか。

「注」 評価点の目安

評価	高い	やや高い	普通	やや低い	低い
点数	5	4	3	2	1

試験研究機関の処置

今回、果菜類を対象とした有機栽培試験を初めて行なったが、今後も有機栽培に関する課題の中で継続して有効なコンパニオンプランツや有機肥料の探索について取り組んでいきたい。また、農家の圃場での現地試験についても実施していく。さらに土壌改善については、長年、有機農業を行ってきた圃場と、新規に始める低地力の圃場とに分けて、土壌バランスの改善が図れるよう努めていく。